

第2期行方市スポーツ推進計画

誰もが、いつでも どこでも いつまでもスポーツに
親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現



令和3年3月

行方市教育委員会

はじめに

行方市では、全国的な傾向である少子高齢化や人口減少、合併後の地域コミュニティづくりなど、さまざまな課題があります。市制施行から15年が経過し、新たなまちづくりでは、子供からお年寄り、障がいや性別を問わず、市民の関心や適性に応じてスポーツに参画できるスポーツ環境の整備、スポーツを通じた人と人との繋がりや健康づくりが求められています。

このような中、スポーツ庁は「スポーツ参画人口」を拡大し、全ての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り、スポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い世界を創ることを基本方針とした、第2期スポーツ基本計画を策定しました。

第2期計画では、「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、それぞれの人生を生き生きとしたものとするのが期待されています。さらに、スポーツには競技種目のようなものだけでなく、野外活動やスポーツ・レクリエーション活動等も含まれることから、スポーツは健康維持や仲間との交流など、各人の適性や関心に応じて行うことができる「みんなのもの」とされています。

こうした国の動向、さらには、活力と生きがいのある生涯スポーツ社会の形成を目指して、この度「第2期行方市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

第2期行方市スポーツ推進計画は、国の「第2期スポーツ基本計画」で描かれる、「スポーツで、楽しく健康で活力のある人生に」の考えを受け、行方市教育大綱に基づき、より行方市の実情にあったスポーツ推進の方向性を示すものです。第2期計画においても、基本理念の『誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現』のもとに、基本方針として、「ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進」、「スポーツ環境の整備と充実」、「スポーツ実践活動の推進」、「スポーツを通じた人と人とのつながりと交流の推進」の4つの柱を掲げています。今後、それぞれの目標と具体的な施策等を示す中で、「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取組を計画的・継続的に推進して参ります。

結びに、本計画策定に当たりまして、ご尽力いただきました行方市スポーツ推進審議会委員の皆様、アンケートにご協力をいただきました市民の皆様方をはじめ多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。

令和3年3月

行方市教育委員会教育長 横田 英一

本市のスポーツ振興施策を顧みて

平成28年度に策定されたスポーツ推進計画は、以下の6の施策により、地域スポーツの充実・発展を目指してきました。第2期計画においては今までの成果や実績などを検証することにより、本計画づくりに生かし引き継いでいくこととします。

以下、施策体系ごとにまとめてみました。

(1) スポーツ情報の提供

市報や市ホームページを介して、多くのスポーツ情報を提供してきました。市報では、主に年間計画に沿った募集や大会結果を伝え市民の皆様の参画を促してきましたが、ホームページでは、リアルタイムでのPRなど別角度からの情報提供の上積みが期待されています。また、なめがたエリアテレビ等も活用し、情報提供のさらなる強化が必要です。

(2) スポーツ機会の充実

従来のスポーツ競技に加え、軽スポーツやレクリエーション的な活動も広く親しまれています。今後は、スポーツと健康づくりを一体とした取り組みを増やしていくことが、課題だと考えます。

(3) スポーツ施設の整備充実

学校建設などにより、スポーツ施設は減少してきましたが、既存の施設の機能的な利用を図ってきました。今後の施設整備は、スポーツ施設が地域の活力を生み出すなどの付加価値を見出すことも必要だと考えます。

(4) 組織の育成・充実

平成24年3月に、総合型地域スポーツクラブ「なめがたふれあいスポーツクラブ」が誕生し、活動を展開しています。平成29年度より法人化され、今後は認知度を高めると共にさらなる事業の充実が求められています。

(5) 指導者の育成・確保

総合型地域スポーツクラブにおけるクラブマネージャーなどは、配置されてきました。今後は行方市体育協会（行方市スポーツ協会）と連携し、指導者の育成を進めることが必要だと考えます。

※行方市体育協会は令和3年度より法人化され、NPO法人行方市スポーツ協会となる予定です。本計画では「行方市スポーツ協会」と表記します。

(6) ニュースポーツ等の普及・振興

運動が苦手な子供達でも、ゲーム性のあるニュースポーツには、興味を示す機会が多くあります。学校での取り組みの芽も出ています。また高齢者も含めたファミリースポーツにも総合型地域スポーツクラブ「NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ」が取り組んできました。興味関心をより一層高めていくことで、主体的にスポーツをする多くの市民を増やしていくことを考えています。

目 次

第1章 行方市スポーツ推進計画の基本的な考え方・・・・・・・・・・	4
1. 計画の背景と趣旨	
2. 計画の位置付け	
第2章 スポーツ推進の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
1. 基本理念	
2. 基本方針	
3. 基本目標	
計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
第3章 計画推進のための施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
1. ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進	
(1) 子どものスポーツ	
(2) 成年のスポーツ	
(3) 高齢者のスポーツ	
(4) 障がい者の運動やスポーツ	
2. スポーツ環境の整備と充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
(1) スポーツ団体等の活動支援	
(2) 学校体育施設開放事業	
(3) 公共体育施設等の充実	
3. スポーツ実践活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
(1) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援	
(2) 競技スポーツの支援	
4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進	23
(1) スポーツ交流の充実・支援	
資料 市内運動場の地図・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
スポーツに関する市民意識調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
・一般市民のスポーツに関するアンケート結果	
・市内小・中・高校生アンケート結果	

第1章 行方市スポーツ推進計画の基本的な考え方

1. 計画の背景と趣旨

昭和36年に制定されたスポーツ振興法は、我が国のスポーツの発展に大きく貢献してきました。しかし、制定から50年が経過し、スポーツが広く国民に浸透し、スポーツを行う目的が多様化するとともに、地域におけるスポーツクラブの成長や、障がい者スポーツの振興、さらには、プロスポーツの発展、スポーツによる国際交流や貢献など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。

このような中、国はスポーツ振興法を50年ぶりに全面改定し、平成23年6月スポーツの推進のための基本的な法律として「スポーツ基本法」を制定し、平成24年3月には「スポーツ基本計画」を策定しました。

これをうけ、茨城県においては、平成27年3月「茨城県スポーツ推進計画」が策定され、本市においても、スポーツを通じて市民誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、感動を分かち合い、交流できるまちの実現を目指して、平成28年3月にスポーツ推進計画を策定いたしました。

そのスポーツ推進計画も策定から5年が経過し、令和3年度より第2期を迎えます。第2期計画では「する、みる、ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ること。さらには競技種目のようなものだけでなく、野外活動やスポーツレクリエーションも含め、健康維持や仲間との交流を楽しみ、各人の適性や関心に応じて行うことができる「みんなのもの」といった観点が新たに設定されています。

本市においても、全ての人々がスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、感動を分かち合い、支え合う社会の実現に向けて、本計画を策定いたしました。

2. 計画の位置付け

(1) 関連計画等

スポーツ基本法（文部科学省：平成23年8月）

スポーツ基本計画（文部科学省：平成24年3月）

茨城県スポーツ推進計画（茨城県：平成27年3月）

行方市第2次総合計画（行方市：平成28年度～令和7年度）

行方市教育大綱（令和3年度～令和7年度）

行方市学校教育プラン（令和4年度～令和8年度）

行方市健康づくり計画（平成25年度～令和4年度）

行方市障害者計画（平成30年度～令和5年度）

行方市地域福祉計画（平成29年度～令和3年度）

行方市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）

行方市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）

など。

(2) 性格および位置づけ

本計画は、関連計画などとの整合性を考慮しつつ、行方市が目指すスポーツ事業を推進するために、長期的、総合的な視点から、その基本的方向を示すものです。

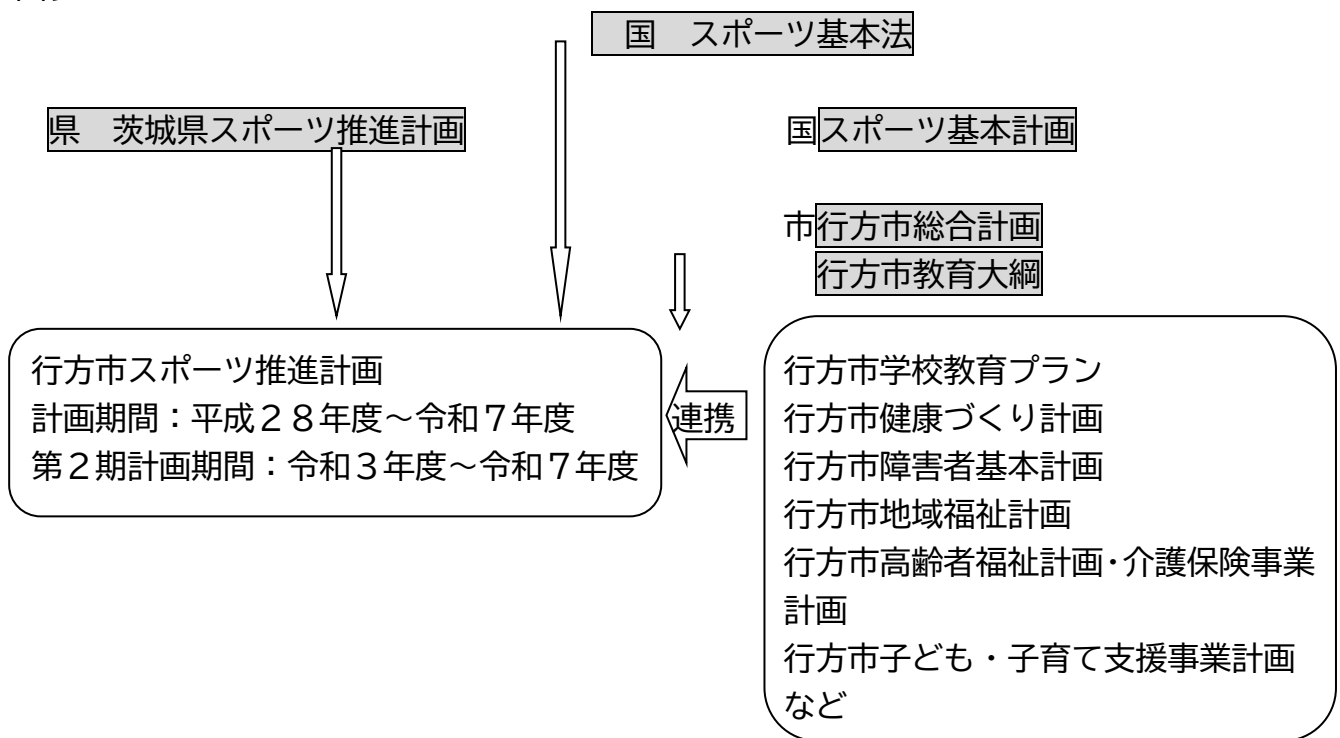
- ① 本市スポーツ推進に関する基本的・総合的な計画です。
- ② スポーツ団体や市民に対し、主体的な参加を求めるものです。
- ③ 市民の生涯にわたるスポーツライフ及び健康の保持推進のための基本的方向を示すものです。

(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、平成28年度から令和7年度までの10年間とし、今後の社会情勢の変化や計画のPDCAサイクルによって見直しを行いつつ進捗を管理していきます。

第2期計画は計画策定から5年経過したことを受け、中間見直しを行い、令和3年度から令和7年度までの後期を計画期間としています。

図表1



※PDCAサイクルとは、計画 (plan)、実行 (do)、評価 (check)、改善 (act) のプロセスを順に実施するものです。改善 (act) で、評価 (check) の結果から、最初の計画 (plan) の内容を継続、修正、廃棄のいずれかにして、次の計画 (plan) に結び付けます。このプロセスを繰り返すことによって、計画の維持・向上および継続的な改善活動を推進するマネジメント手法です。行方市スポーツ推進計画では、PDCAサイクルにより、5年後に見直しを行います。

第2章 スポーツ推進の方向性

1. 基本理念

誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる
「生涯スポーツ社会」の実現

2. 基本方針

国の「スポーツ基本法」において、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利」とうたわれ、全ての人のスポーツ権の保障が明記されました。さらに「スポーツ基本計画」では、基本法の基本理念の実現を目指して、10年間の基本方針と5年間に実施する施策が示されています。

茨城県の「茨城県スポーツ推進計画」では、5年間に実施する施策が示されています。

本市では、「行方市スポーツ振興基本計画」を策定し、スポーツ振興の施策を展開してきましたが、これまでの考え方を踏まえながら、国・県の計画を参酌し、行方市教育大綱の基に、次の4つの項目を柱とし行方市の実情にあったスポーツ推進を計画的に進めていきます。

(1) ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進

幼児から高齢者まで（子ども、成人、高齢者、障がい者）、ライフステージに応じた多様な運動やスポーツ活動の機会の創出を図ります。

(2) スポーツ環境の整備と充実

全ての市民が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を整備します。

(3) スポーツ実践活動の推進

市民の多様化するスポーツニーズに応えるため指導者・スタッフを育成します。また、上位大会へ出場する選手・団体を支援します。

(4) スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

幼児から高齢者まで、スポーツでの出会い、かかわり合い、つながり合いを通して、住民のスポーツによる交流・仲間づくりを進めます。

第2期計画より、「する・みる・ささえる」「みんなのもの」の理念からスポーツ観戦やボランティアなど、幅広い形でのスポーツ参画人口の拡大を目指します。

3. 基本目標

基本理念及び基本方針を踏まえ、基本目標を定めます。

(1) すべての市民が、いつでも、どこでも、いつまでも体力や年齢、適性や健康状態、興味や目的に応じて、スポーツに親しむことができるようにします。

(2) スポーツを通じて市民がつながり合い、交流が活発になるように、地域社会が連携・協働して地域のスポーツ環境を整備します。



計画の体系

基本理念：誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現

基本目標	
すべての市民が、いつでも、どこでも、体力や年齢、適性や健康状態、興味や目的に応じて、いつまでもスポーツに親しむことができるようにします。	スポーツを通じて市民がつながり合い、交流が活発になるように、地域社会が連携・協働して地域のスポーツ環境を整備します。

基本方針（4つの柱）			
1. ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進	2. スポーツ環境の整備と充実	3. スポーツ実践活動の推進	4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進
1 子ども 【目標】日常生活での運動遊びや、園内外、学校内外での運動やスポーツ活動の推進 2 成人 【目標】運動やスポーツ活動への参加を促進 3 高齢者 【目標】生涯スポーツが高齢者の生活の楽しみに 4 障がい者 【目標】誰もが参加しやすく楽しむことができる運動やスポーツ活動の推進	1 スポーツ団体等の活動支援 【目標】スポーツ団体や、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）活性化の促進 2 学校体育施設開放事業 【目標】学校体育施設開放事業の推進 3 公共体育施設等の充実 【目標】市民が日常的にスポーツに親しむ体育施設の整備確保	1 スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援 【目標】指導者の育成と活用の促進 2 競技スポーツの支援 【目標】行方市スポーツ補助金事業の継続 児童生徒に優れた指導者からのコーチング機会の増加	1 スポーツ交流の充実・支援 【目標】スポーツの持つ魅力の多面性を多くの人と共有 スポーツを通じ「行方」を内外に発信 スポーツレクリエーション・運動会等を通じ世代を超えた交流の推進 2 「する・みる・ささえる」スポーツ参画人口の拡大 【目標】スポーツ観戦やボランティアなど、幅広い形でのスポーツ参画人口の拡大

第3章 計画推進のための施策

計画の実現にむけては、施策ごとに目標を定め、実施していきます。

本市のスポーツ振興に関する情報を発信するとともに、市民のスポーツに関する意識調査を定期的に実施することにより、市民のニーズを把握し、スポーツ推進事業に反映します。

1. ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進

(1) 子どものスポーツ

<現状と課題>

幼児期から小学生・中学生・高校生の時期においてスポーツは、生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど人間形成に重要な役割を果たすものです。

近年子どもたちを取り巻く環境は、塾通い、テレビゲーム・携帯機器の普及、遊び場の減少など、日常生活や自然の中で身体を動かす機会が減少しており、このことが体力・運動能力低下の一つの要因になっていると考えられます。また、積極的に運動やスポーツ活動に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められ、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が課題となっています。

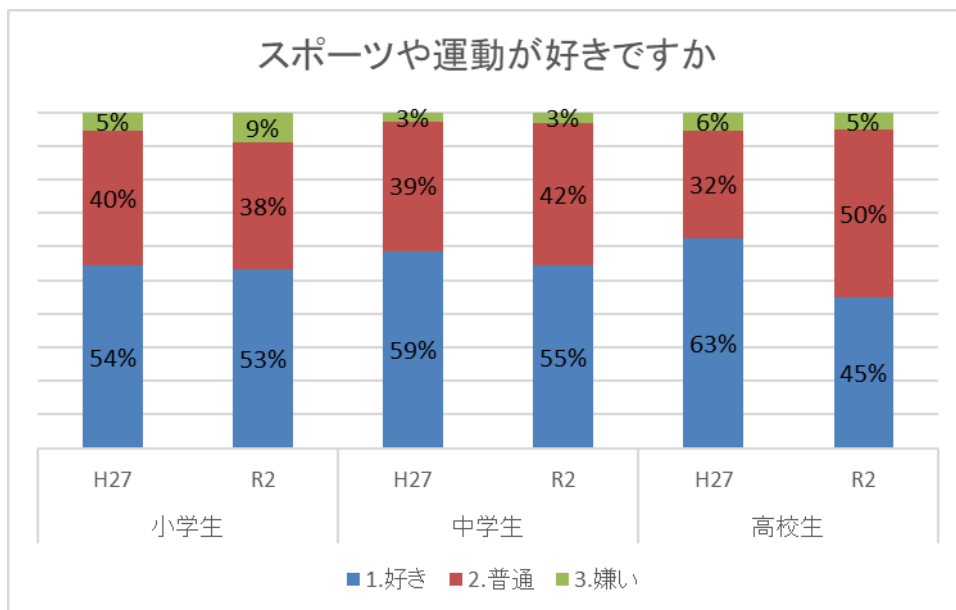
このような中、子どもの体力・運動能力向上、スポーツ機会の充実には、幼児期からの取り組みや学校等でのスポーツの苦手な子どもへの対応などと共に、スポーツ少年団の児童の送迎に見られるような、保護者や地域の理解・協力が非常に重要となっています。

また、特に中学校の運動部活動においては、専門的指導者の不足のために十分な指導が受けられないなどの課題もあります。そのことは中学校卒業後のスポーツに対する意識や行動に大きな影響を与えます。すべての子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しむことのできる一貫性のある指導体制の構築が求められています。

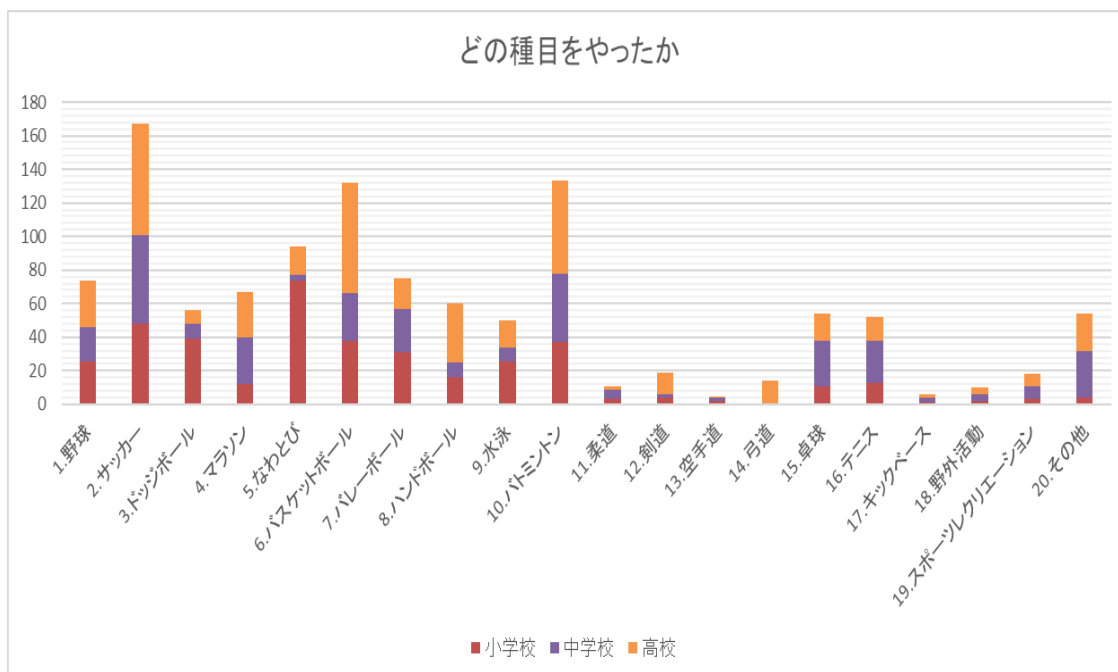
本年度実施した行方市内の小学生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が91%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが90%でした。このうち、1週間に3回以上スポーツや運動をした小学生は29%、また月に1～2回以下が13%ありました。

中学生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が96%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが91%でした。このうち、1週間に3回以上スポーツや運動をした中学生は35%です。

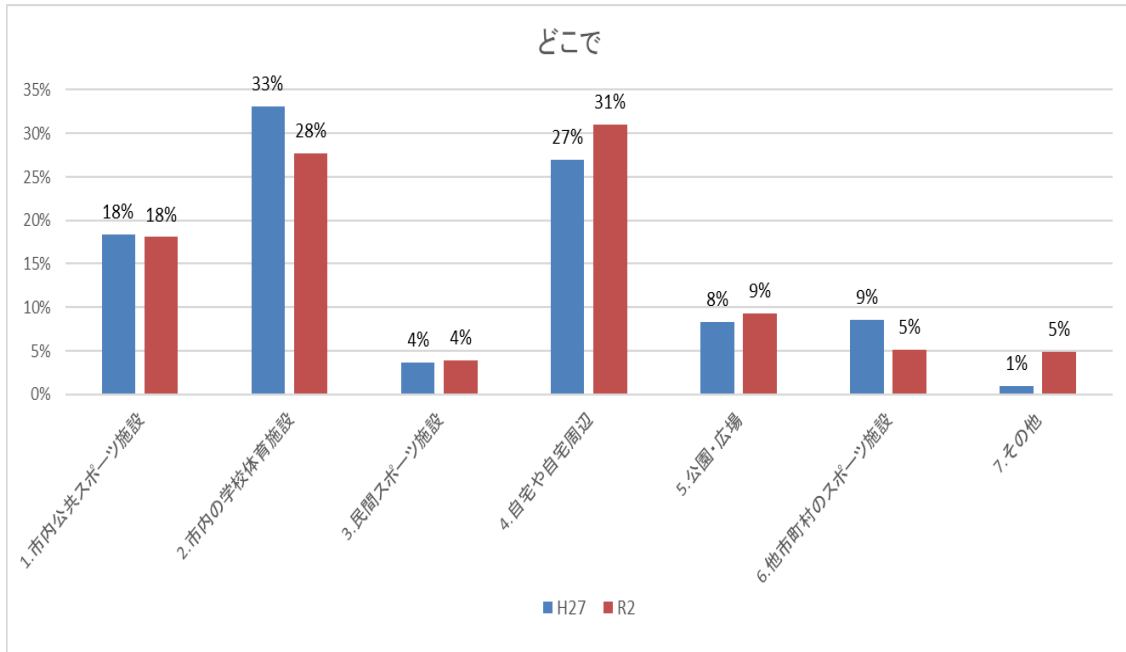
高校生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が92%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが63%であり、小中学生と比べると減少傾向にあります。また前回調査（平成27年）と比較して、好きと回答した割合は18%減少しています。



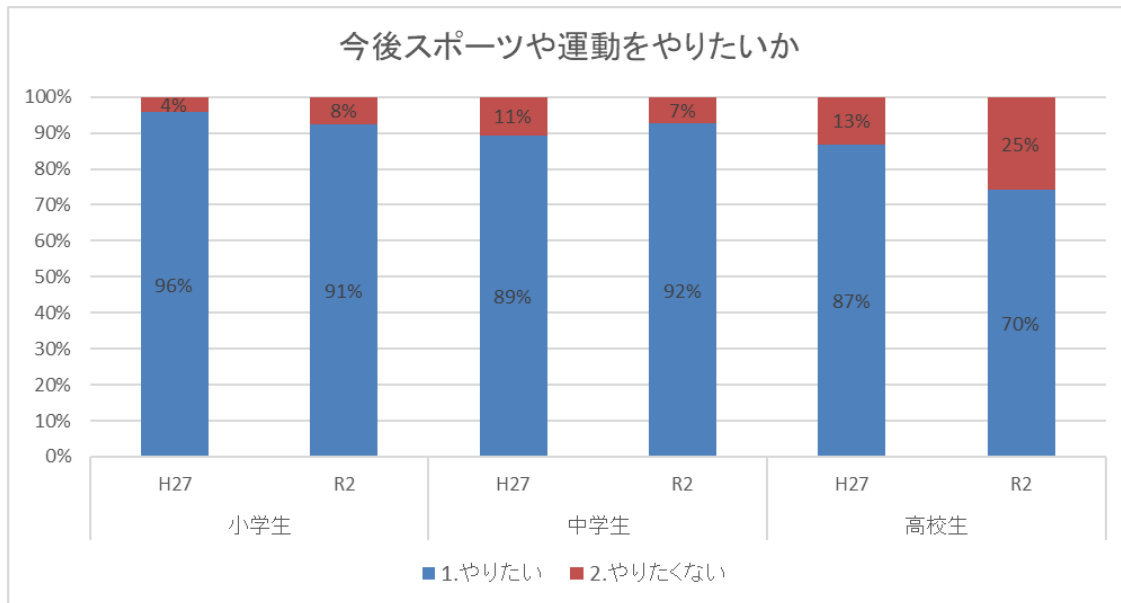
行った種目では、なわとびやドッジボールなど遊戯性の高い種目は小学生のとき行う割合が高く、高校生になると弓道なども行っています。また、サッカーは小・中・高校生をとおして人気の高いスポーツです。



スポーツを実施した場所は市内公共スポーツ施設が18%、市内の学校体育施設が28%、自宅や自宅周辺が31%となっています。前回調査に比べ、市内の学校体育施設が減少し自宅や自宅周辺が増加しています。



今後スポーツや運動をやりたいかについては、小学生91%、中学生92%ですが、高校生は70%と前回調査よりも減少しています。子どものときから体を動かす習慣を身に付け、大人になってもスポーツや運動が継続的に実施できるようすることが課題といえます。



<目標>

幼少期より適切な運動を、適切なタイミングで行っていくことが、子どもたちの心身の発達に大切なことから、日常生活での運動遊びや、スポーツ少年団活動を含む園内外、学校内外での運動やスポーツ活動を推進し、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境づくりを図るとともに、中学校及び高校の運動部活動の活性化を支援します。

<施策の展開>

① 地域でのスポーツ活動の充実

- ・外遊びや運動遊びなどの体験を通じて、スポーツに苦手意識のある子どもでも、気軽に楽しく体づくりができる機会を提供します。
- ・夢先生、ボールゲームフェスタ等のイベントを通し、プロ選手と触れ合う機会を提供することによってスポーツへの関心向上や楽しさに気付く機会を提供します。
- ・アクティブチャイルドプログラムを実施することにより身体能力の向上を図るとともに、体を動かす楽しさに気付く機会を提供します。

※アクティブチャイルドプログラムとは、鬼ごっこや缶蹴りなど手軽で楽しい運動を通して、子どもの発達段階に応じた体の動かし方の習得を図るプログラムです。本市ではこのプログラムを実施する指導者向けの研修を実施していきます。

② 家庭、地域への啓発

- ・子どものこころとからだの問題や体力低下の問題におけるスポーツの意義について理解を促し、家庭、地域において子どもが運動を習慣化し、明るく楽しく豊かな生活を享受できることを目指した啓発活動を行います。
- ・スポーツが人間形成に重要な役割を果たすことや、効果的なトレーニングの方法、バランスの良い食事・栄養と運動とのかかわりの大切さなどについて、情報提供や講習会の開催を推進します。

③ 幼・保育園・認定こども園及び学校体育での取り組み

- ・子どもたちが「できる」楽しさを味わえる授業づくりなど、より良い運動習慣の形成のための方策を、積極的に支援していきます。
- ・教員の指導力向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実を図ります。

④ 手軽に楽しめるスポーツ実施機会の充実

- ・放課後に地域の幼児、児童が気軽に集える「居場所」（「放課後児童クラブ」など）の確保や機会づくりを支援します。
- ・幼児期や児童期に、多様な遊びやスポーツを経験できるような環境づくりを進めます。「子育て支援センター」等と連携し、安全・安心な遊び場・公園・広場等の整備や見守りを支援します。
- ・総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）と連携して、子どもと保護者・家族が、異年齢の子どもや多世代の大人とともにスポーツに親しむことができる機会を充実させる取り組みを行います。

⑤ 種目別スポーツの基礎づくり

・スポーツ少年団活動などでの、各種スポーツの基礎づくりを支援していきます。また、中学校と調整しながら、ジュニアリーダー・シニアリーダーの育成も図っていきます。

⑥ 運動部活動の活性化

・行方市スポーツ少年団や行方市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）等と連携しながら、地域社会と連携・協働した一貫性のある指導体制の充実を図ります。

・指導者に対しては、医・科学的な根拠に基づくトレーニング指導法や、スポーツ心理学、スポーツ栄養学等、新しい科学的知見に基づく研修会を開催し、指導力の向上を図ります。

⑦ 自然資源を活用したリーダー養成

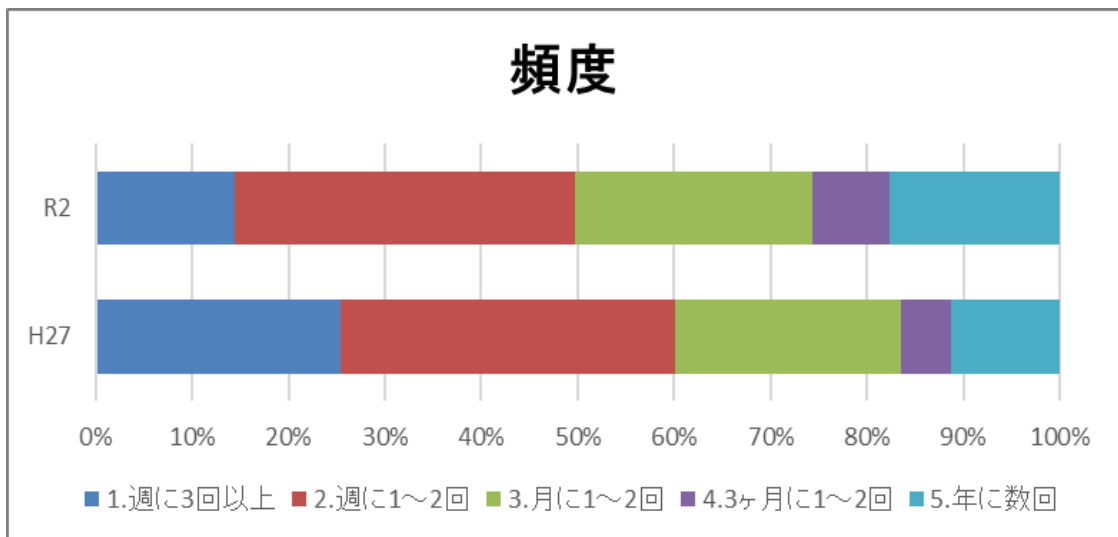
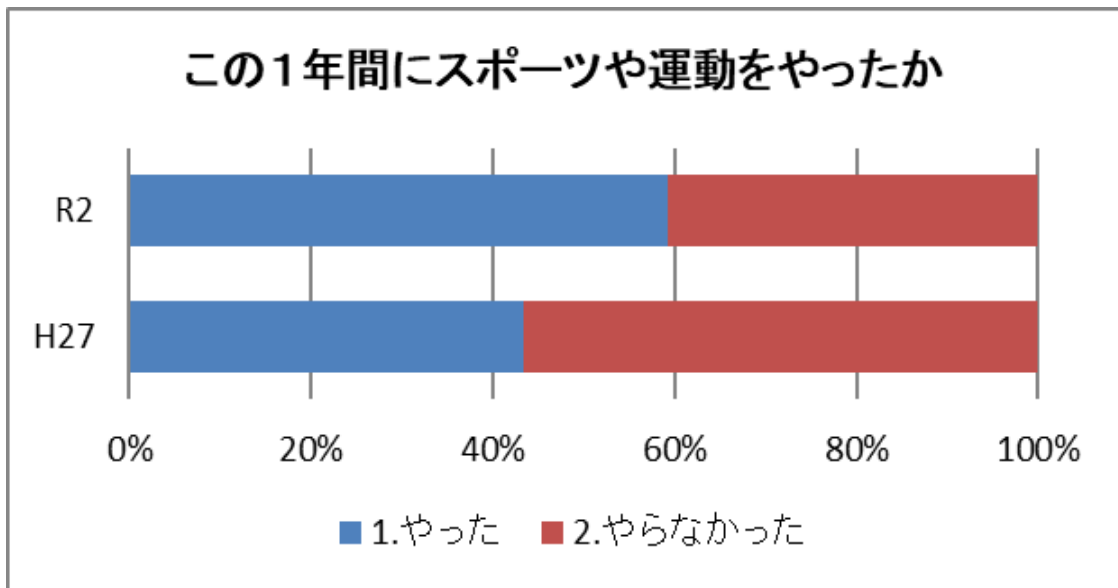
・行方市の水や緑の自然資源を活用し、「体験学習」（水辺体験学習や自然体験学習など）を通して青少年の人間形成とリーダーシップを養成します。



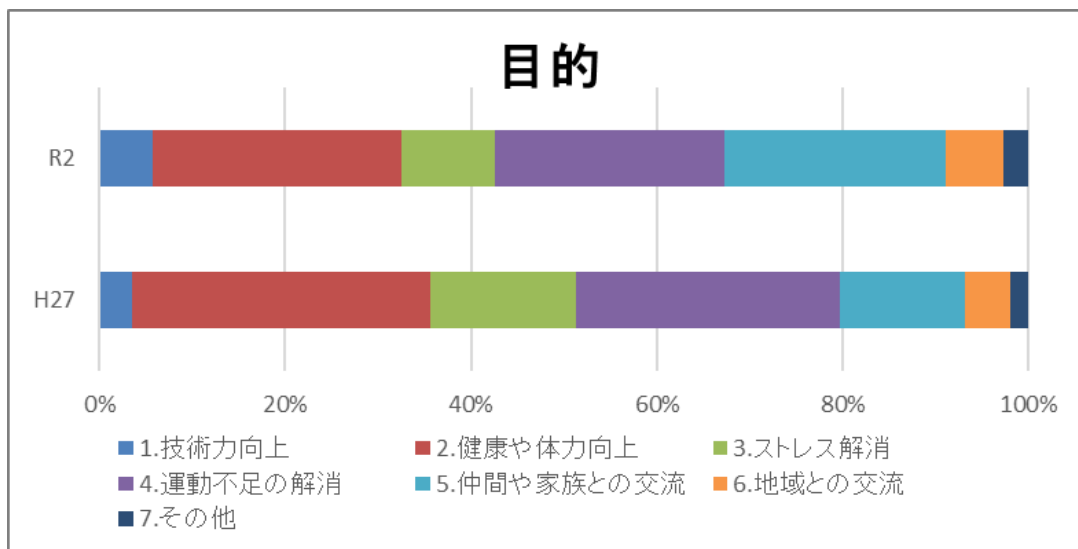
(2) 成人のスポーツ

<現状と課題>

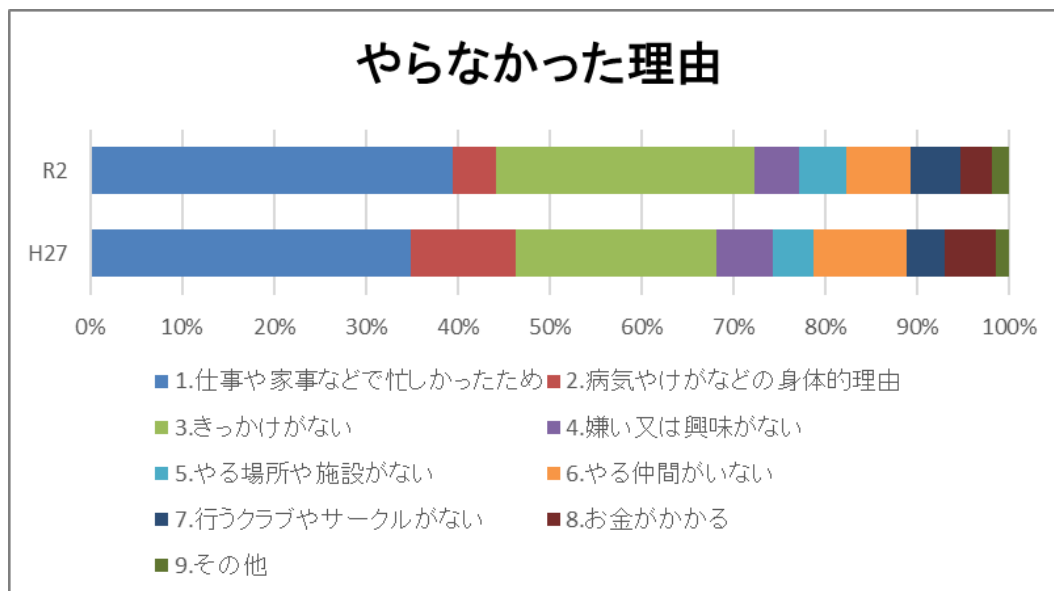
本年度実施した行方市のスポーツに関するアンケート調査では、この1年間に運動を実施した実施率は59%で、前回調査の43%よりも上昇しています。実施した方のうち週1回以上実施した実施率が46%となり、前回調査58%より減少しています。運動の実施はしているものの、定期的・継続的な実施には結びつきにくい現状があることがわかります。



平成27年アンケートで、この1年間スポーツや運動を実施したと答えた方の目的は、「健康や体力づくり」32%、「運動不足の解消」28%と6割の方が健康の維持増進として実施しています。今回調査でも大幅な変化はしていないものの、「技術力向上」や「仲間や家族との交流」といった目的が増加しており、目的の多様化が進んでいることがわかります。



実施しなかったと答えた方の理由では、「多忙」が一番多く、前回調査よりも増加しています。「きっかけがない」が次に多くなっています。スポーツや運動をはじめるときっかけがあればやれる状況（潜在的なスポーツニーズ）がうかがえます。



<目標>

成人の運動やスポーツ活動への参加を促進します。

- ・週1回以上のスポーツの実施率を65%程度にする。
- ・1年間に運動やスポーツをやらなかった人の割合をできるだけ0%に近づける。

<施策の展開>

① スポーツプログラムの創出・PR

・スポーツを生涯にわたって継続できるように、仲間づくりをしながらできるスポーツやひとりでも気軽に取り組むことのできるスポーツプログラムを創出し、PRに努めます。

② スポーツイベントへの支援

・運動会等のスポーツイベントや各種スポーツ教室等の内容を吟味、工夫し参加しやすくするとともに、行方市スポーツ推進委員会と協力し、スポーツ推進委員が地域に入ったラジオ体操の実施など、地域住民の誰もが参加しやすい事業を支援します。

③ 運動・スポーツを楽しむ機会の提供

・仕事等で忙しく運動やスポーツをしていない人たちに対して、忙しい中でも体を動かすことの重要性や、日常生活の中で気軽にできる運動プログラム等の情報を提供します。

・病気・怪我のため運動やスポーツをしていない人たちに対して、スポーツや健康に関する事業・イベント・各種教室や運動の仕方・健康に関する情報・リハビリトレーニングに関する情報などを、なめがたエリアテレビ等を活用し提供していきます。

・スポーツや運動をするきっかけのない人たちに対して、各種団体（行方市スポーツ協会・行方市スポーツ少年団等）、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）と連携し、スポーツや運動を楽しむ機会を提供します。

④ 職場における手軽な運動の推奨

・市内の事業者等に働きかけ、職場における手軽な運動の実施を推奨します。

⑤ 関係事業課等との連携

・スポーツや健康に関する事業・イベントを健康増進課等関係各課と連携を図りながら進めていきます。



(3) 高齢者のスポーツ

<現状と課題>

高齢者の運動やスポーツの実施状況を見ると、運動やスポーツに親しむ人とそうでない人の二極化の傾向が見られます。スポーツはしていなくても、農作業等に従事し、日々体を動かしている高齢者も多いと思われませんが、グラウンドゴルフ等のスポーツに親しむ高齢者が多くいるのも現状です。今後も運動やスポーツを問わず、体を動かさない高齢者を限りなく0%に近づけることが重要な課題です。

<目標>

高齢者が健康の保持増進のための運動習慣を身に付けられるよう、「健康づくり計画」等と連携しつつ、身体活動の機会の増加を推進します。生涯スポーツが高齢者の「生活の楽しみ」「居場所（仲間との交流）」「生きがい」等になることを目標にします。

<施策の展開>

- ① ニュースポーツの普及
 - ・高齢者が気軽に参加できるニュースポーツ等の積極的な普及に努めます。
- ② 身体活動の機会の増加・啓発支援
 - ・総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）との連携を密にし、高齢者を含めた様々な世代の「交流空間」を創設するとともに、施設入居者を含めた高齢者の身体活動の機会の増加について、啓発・広報・支援活動を行います。
- ③ スポーツ文化交流支援
 - ・ねんりんピック（全国健康福祉祭）など、スポーツ・文化を通じ交流を深められる事業への参加を支援していきます。
- ④ 主体的なスポーツ活動への勧誘
 - ・老人クラブをはじめとする地域の高齢者自主グループに働きかけ、主体的に生涯スポーツへの興味を持つことができるように、現在体を動かしていない高齢者へ啓発や広報活動に併せて勧誘を行います。



(4) 障がい者の運動とスポーツ

<現状と課題>

平成23年8月に施行されたスポーツ基本法において、スポーツの価値や意義とともに、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」とであると定められています。

障がい者のスポーツは、リハビリテーションの延長という考え方から、日常生活で楽しむレクリエーションや健康の維持・増進などを目的とした生涯スポーツ、競技するスポーツへと変わってきました。

行方市においては、障がい者のスポーツは、行方市総合計画に基づき、福祉部門を中心に行っています。しかし、障がい者スポーツの環境（場所・指導者）は未だ整っていない状況にあります。障がい者の日常の過ごし方として、レクリエーションやスポーツを楽しむ機会が少ないのが現状です。こうした中、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）では、障害者就労支援事業所の参加があり、一般の方と一緒に汗を流し、楽しむグループも出てきています。

<目標>

障がいの種類や程度に応じて、誰もが参加しやすく楽しむことができる運動やスポーツ活動を推進します。

<施策の展開>

① 交流できるスポーツ環境の整備

・障がいのある人もない人も共にスポーツができる機会を提供し、障がいに関係なく一緒にスポーツを楽しみ交流できる環境をめざします。

② スポーツ実践活動への調査・研究

・誰もが健康で豊かな生活が送れるよう、福祉部門と連携して日常的な運動・スポーツ種目や指導方法について調査・研究します。

③ コーディネーターの養成

・障がい者スポーツ推進のためのコーディネーターとして、「障がい者スポーツ指導員」「障がい者スポーツボランティア」を養成していきます。

・介助等のボランティアの育成・確保に努めます。

④ 情報発信の推進

・スポーツの効用に関する情報発信や、障がいのある人が「いつ、どこで、どのようにして」できるかという具体的な情報発信・普及啓発を推進します。

2. スポーツ環境の整備と充実

(1) スポーツ団体等の活動支援

<現状と課題>

市民の健康や体力の維持増進のためには、指導者の充実や指導者の適切な指導が欠かせません。

行方市のスポーツに関するアンケート調査、「今後運動やスポーツをするようになるため、どうすればよいか」では、休日等の時間の使い方を工夫する26%、一緒にやる仲間を見つける26%、一人でもいろいろなスポーツができるようなくみ（団体やサークル）を作る7%、市の体育館や運動場を気軽に使えるようにする23%、いろいろな人たちが自由に参加できるしくみ（団体やサークル）を作る17%となっています。

総合型地域スポーツクラブは、平成7年より文部科学省が実施するスポーツ振興策の一つで、スポーツ振興基本計画では、「全国各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブを育成する」としていることから、行方市では平成24年4月に新しい総合型地域スポーツクラブとして「なめがたふれあいスポーツクラブ」が創設され、平成29年度からは法人化もされ、NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブとして活動しています。地道な努力によって会員や参加者の笑顔は次第に増えています。しかし、まだまだ認知度が低く参加者も少ない状況もあります。

現在の活動状況として、定期開催は、毎週土曜日に玉造運動場体育館で、午前中誰でも参加できる「ふれあい教室」の開催や、幼・小学生を対象に「ヒップホップダンス教室」を毎週木曜日レイクエコーで夜2時間程度開催しています。その他にも体幹トレーニング教室を毎月第二火曜日、ヨガ教室を毎月第四水曜日に実施し、ウォーキング教室やバランスボール教室などのイベントも開催しています。メインとなる「ふれあい教室」は体操、卓球、ニュースポーツなど多種目を楽しめる場となっています。参加者は小学生、障害者施設利用者、高齢者が中心です。若い働き盛りの方は、仕事などのため参加者が少ないことが課題です。

また、オリンピックモンゴルウエイトリフティングナショナルチームの事前キャンプ誘致を契機に、本市においてもウエイトリフティングクラブの創設が予定されています。ウエイトリフティングは競技自体の魅力だけでなく、運動の基礎となる筋力やバランス力の向上など健康面においての効果も期待できる競技です。同クラブとの連携を図り、市民の健康向上にも取り入れることが期待されます。

<目標>

地域におけるスポーツ機会の充実を図るため、スポーツ団体や、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ）の活動を促進していきます。

<施策の展開>

① スポーツ団体等の活性化支援

・スポーツの普及・推進には、市内のスポーツ団体（行方市スポーツ協会、行方市スポーツ少年団等）が、重要な役割を担っています。そのため、これまでの事業をさらに充実させるとともに、自主的・主体的・継続的に活動しているスポーツ団体に対し支援を行い、個々のスポーツ団体の活性化を図りつつ、地域スポーツの活性化や運動・スポーツ人口の拡大等につなげます。令和3

年度より行方市体育協会はNPO法人行方市スポーツ協会として法人化される予定となっており、より自主的・主体的な活動が推進されます。

② スポーツに関する組織等の連携支援

・行方市スポーツ協会、行方市スポーツ推進委員会、行方市スポーツ少年団、市内小学校、中学校、高等学校、スポーツ団体等が連携することにより、総合的・体系的な活動体制が築けるよう、スポーツ推進のための組織体制の充実に努めます。

参加者数拡大の取り組みやトップ選手等からの研修機会の確保など、また食事や栄養、医療部門との連携を図りながら、各種支援体制を築いていきます。

③ 「NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ」の活性化支援

・「クラブ育成には、①自主的な運営、②自主財源を主とする運営、③クラブとしての理念の共有を基本認識のもと支援」という前期計画の施策は、平成29年度の法人化によりおおむね達成されました。

第2期計画においては、総合型地域スポーツクラブの主役である地域住民が各種のイベントなどいろいろな形でスポーツを楽しむことのできる身近な場となれるよう、「NPO法人なめがたふれあいスポーツクラブ」について情報発信を行い、市民に対する総合型地域スポーツクラブの活動の認知度を高めます。

④ 行方市スポーツ推進委員会の活動強化

・スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき市教育委員会から委嘱される非常勤の特別公務員です。従来の体育指導員のような実技指導だけではなく、各地区の住民と行政等をつなぐコーディネーター（啓発・調整・支援等）としての役割が期待されています。今後のスポーツ推進委員の活動は、潜在的なスポーツ需要者の参加を含めて、気軽に身近な住民の生涯スポーツ（地域スポーツ）の発展の要となります。住民の生涯スポーツを、身近な地域独自の魅力ある施策・事業で支える重要な母体となることが望まれます。そのため、必要な技能・能力の向上に資する研修等への参加及び活動の場の拡充を図り、今後もスポーツに関する指導、助言や地域住民と行政とのコーディネーター、スポーツ施策の重要な推進役として活躍できるよう活動の強化に努めます。

⑤ 行政関係部門の連携の強化・充実

・スポーツ推進と健康づくりは密接な関係にあります。今後のスポーツ推進においては市民のスポーツ・運動の活性化と健康づくりに、健康増進課等関係部門間の連携体制の一層の充実に努めます。

(2) 学校体育施設開放事業

<現状と課題>

市民が定期的・継続的に運動やスポーツ活動の推進を目的として、学校体育施設開放事業を行っています。本市に在住または在勤するもので、教育委員会に登録したスポーツ安全保険又は同等の保険に加入した団体に対し開放しています。市内小・中学校体育施設の開放状況は、令和元年度は50団体が週1回から4回利用しています。

<目標>

地域におけるスポーツ機会の充実を図るため、学校体育施設開放事業の推進を図ります。

<施策の展開>

令和3年4月からの学校体育施設開放事業は、受益者負担の原則および体育施設利用者との公平性確保のため、有料化されます。今後もそれらの原則に基づいた適正な管理運営を進めていきます。

(3) 公共体育施設等の充実

<現状と課題>

現在、運動場（麻生・玉造・北浦）が3地区にあります。

麻生運動場については、平成29年度より麻生運動場多目的グラウンドが供用されており、夜間照明付きの天然芝グラウンドである多目的広場、人工芝のテニスコートおよびフットサルコートが整備されました。

玉造運動場・玉造B&G海洋センターについては、体育館、プール、テニスコートがあります。特にプールは市内唯一の設備となっており、学校教育に加え、一般開放もされています。

北浦運動場については、第1グラウンドが令和元年に開催された茨城国体のゲートボール競技会場として使用されるなど、イベント会場としても利用されています。

<目標>

市民が日常的にスポーツに親しむことのできる市体育施設の整備確保に努めます。

<施策の展開>

① 体育施設の広域利用

・行方市は石岡市、茨城町、小美玉市と広域利用の協定を締結し、他市町の体育施設を施設の所在する住民の方と同じ条件で利用できます。今後も広域利用協定のさらなる活用を推進します。

② これからの施設整備

・令和3年度より、受益者負担の原則に基づき、施設使用料金の値上げを実施します。施設の老朽化および維持費の高騰が大きな課題となっており、今後も適切な負担に基づき、施設の計画的な維持管理を推進します。

3. スポーツ実践活動の推進

(1) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援

<現状と課題>

現在行方市では、8種目9人が、茨城県スポーツリーダーバンクへ登録しています。

各競技種目の指導者養成事業については、各個人での対応により、公認スポーツ指導者等の資格を取得しています。

新たな指導者養成とともに、現在資格を取得している人の継続的な活動が、維持進展できるようにすることが、課題となっています。

<目標>

地域スポーツの振興に向けて、指導者の育成と活用を促進します。

<施策の展開>

① 指導者の育成

・市民の多様化するスポーツニーズに応えるためにも、行方市スポーツ推進委員会や行方市スポーツ協会との連携を図りながら、公認指導員等の資格取得や継続更新を支援することや、研修会や講習会への参加を推進するなど、指導者・スタッフの育成と継続活動の支援に努めます。

② 指導者の活用

・地域の指導者の実態把握とともに、公認指導員等には、関係団体・機関と連携を図りながら、指導環境を整備していきます。また、県スポーツリーダーバンク等を積極的に活用していきます。

(2) 競技スポーツの支援

<現状と課題>

行方市スポーツ大会出場補助金事業として、関東大会、全国大会に出場する選手・団体を支援してきました。

競技力向上のために、ジュニア期の選手の育成が大事なことから、相互連携のもとスポーツ少年団や学校部活動などの指導者として、外部コーチ等を含め、求められる指導者が確保・養成される必要があります。

<目標>

選手たちが出場しやすい環境を整えるため、従来から実施している行方市スポーツ大会出場補助金事業を今後も継続していきます。

ジュニア期の児童生徒たちが、多くの指導ノウハウを持った指導者から、体系的にコーチングされる機会を増やしていきます。

<施策の展開>

① スポーツ優秀選手の支援

・スポーツ大会参加補助として関東大会、全国大会等へ出場する選手・団体へ大会参加費、旅費の一部を支援してきましたが、今後も引き続き支援していきます。また、競技力向上を図るため、指導者研修や栄養指導、コンディショニングなどの支援体制を構築していきます。

② スポーツ大会の開催

・選手の競技力向上の動機づけとなるような、大会等を開催していきます。

③ スポーツ教室等の開催

・高いスポーツ技術に触れられる機会を提供し一流選手などによる、教室・講演会等の積極的な開催に努めます。

④ 茨城国体のレガシー活用

・茨城国体のレガシー（遺産）を継承し、さらに各競技団体組織の充実を図るとともに、競技団体の計画する競技力向上に向けた取組を支援します。

4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

(1) スポーツ交流の充実・支援

<現状と課題>

地域での人のつながりの観点から、ウォーキングやハイキング大会、またグラウンドゴルフ大会など、共に行うスポーツ活動が、つながり・交流のきっかけづくりとなる可能性があります。地域住民と一緒に運動する機会として、現在、市民運動会が実施されており、参加者数は平成30年度2,736名となっていますが、参加者層の固定化や競技のマナー化などが指摘されており、運営方法も含め検討を進めていきます。

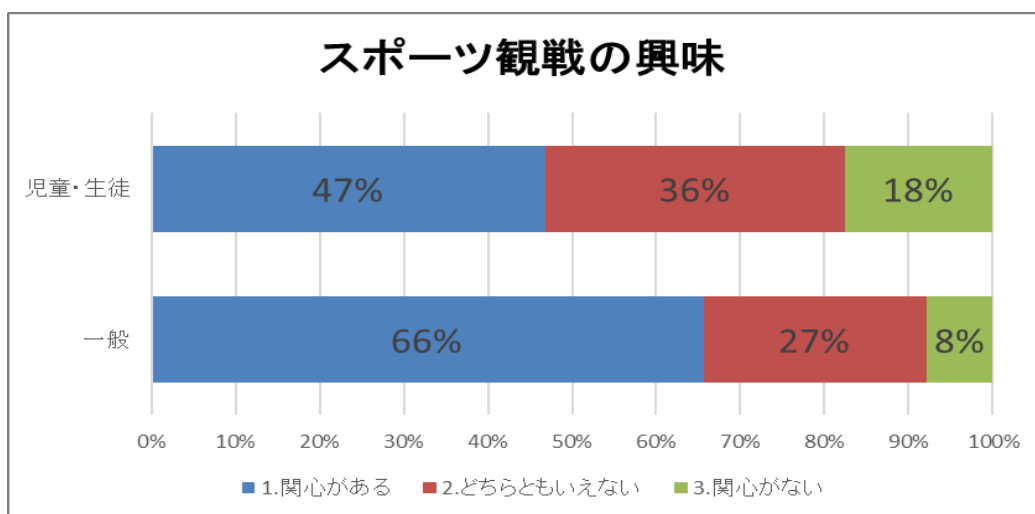
スポーツ基本計画では、「スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」が掲げられています。行方市は、鹿島アントラーズのホームタウンとして参画しています。所属選手等によるサッカーを通じた認定こども園・幼稚園・小学校での交流会や、ジュニア育成も含めた地域に身近なスポーツ活動に注目が集まっています。また、食育やスポーツ医療の面への波及効果も及ぼしています。

企業との連携の一例として、大塚製薬とは、スポーツ振興・健康づくりでの連携協定を結んでいます。

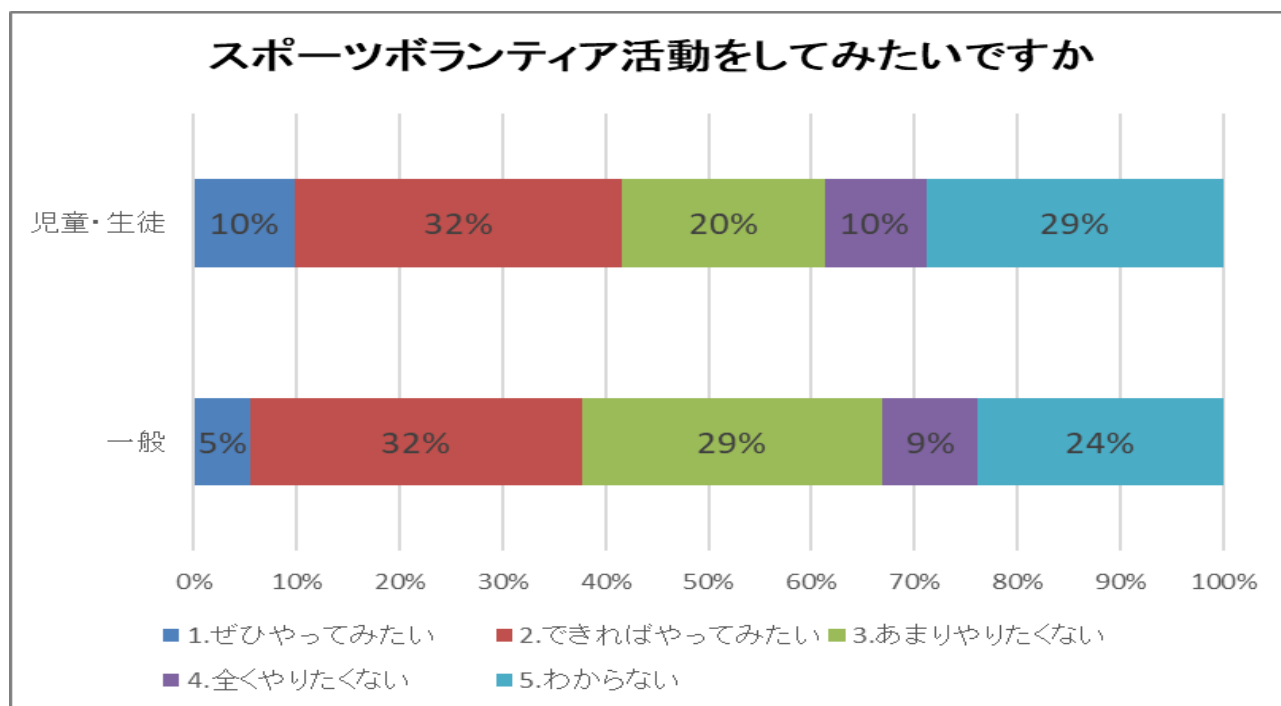
スポーツ活動と地域経済の活性化の面では、市外から参加者を呼び込んで観光と結んでいるフットパス事業や、市外にオープン化されたスポーツ大会などがあります。地域の特産物を賞品や記念品としてPRしています。また、市内の施設を活用したスポーツ合宿も行われています。現状の交流を基軸として、さらに、交流を推進する事業の展開が必要とされています。

また後期計画より、『「する・みる・ささえる」といった様々な形でのスポーツ参画人口の拡大』、『スポーツ競技種目だけでなく野外活動やスポーツレクリエーションも含めて、各人の適性や関心に応じてできる「みんなのもの」であること』という新しい観点からのスポーツ振興が期待されています。

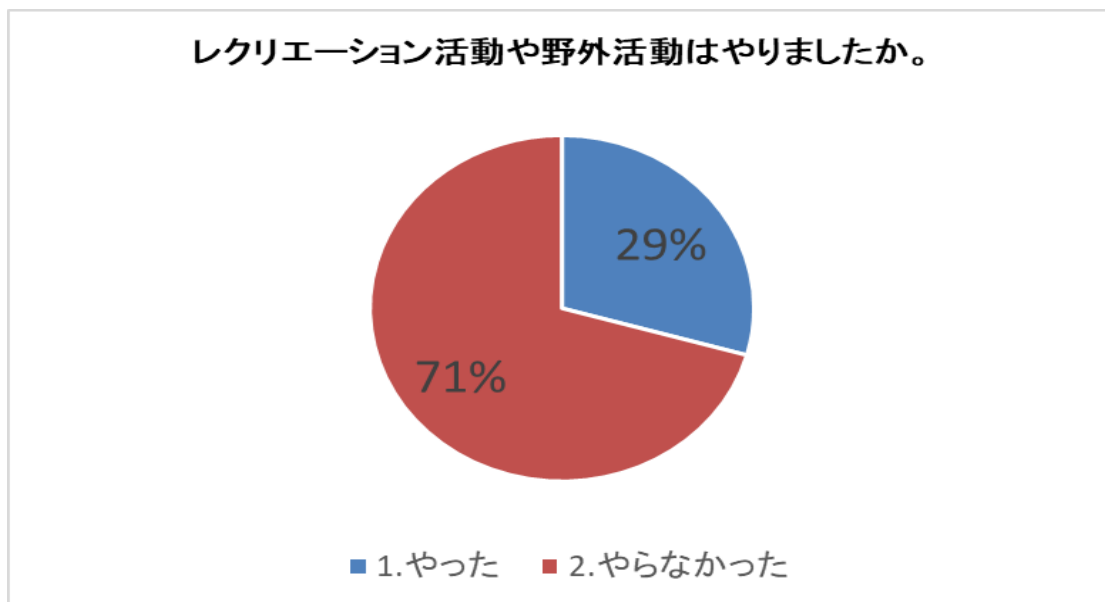
今回調査では、児童・生徒で47%、一般で66%が「スポーツ観戦に関心がある」と回答しており、「みる」という立場でスポーツに参画する層も多くいることがわかります。



ボランティア活動については、「ぜひやってみたい」「できればやってみたい」という回答が児童・生徒で42%、一般で37%となっており、「ささえる」という視点でスポーツへの参画が期待できる人口は多数いることがわかります。また「わからない」という回答も24%~29%あり、この層への訴求が重要となってくることもわかります。



野外活動やレクリエーションについては、「やった」との回答は29%となっており、競技的なスポーツだけではない様々な形でのスポーツ参画である「みんなのもの」という観点からの拡大の余地は大きいという課題があります。



<目標>

スポーツの持つ魅力の多面性を多くの人たちと共有していきます。さらに、スポーツを通じ、「行方」を内外に向け発信していきます。

運動会をより市民がスポーツ・運動を通し世代を超えた交流ができるような、笑顔あふれるスポーツ・レクリエーションイベントにします。

<施策の展開>

- ① スポーツイベントの開催
 - ・スポーツ推進委員と協力しながら、市民のニーズの反映による地域住民の誰もが参加しやすい事業を支援します。
- ② スポーツを通じた交流事業の展開
 - ・スポーツイベントやレクリエーションスポーツなどと、地域活動や経済活動などを組み合わせながら、市内外の人との交流を推進する事業を展開していきます。また、そのような事業を支援していきます。
- ③ スポーツを通じた「行方」のPR
 - ・スポーツを通じた、「行方」のPRを実践していきます。そのために、市の関係部課との連携はもとより、スポーツ団体や関係自治体、大学、企業等とも連携を深めていきます。
- ④ 「みる」スポーツ参画人口の拡大
 - ・関係部課と連携し、鹿島アントラーズホームタウンという行方市の特性を活かしたPRを実践していきます。

⑤ 「ささえる」スポーツ参画人口の拡大

・スポーツを支えることは、「する・みる」とともに、スポーツの楽しみ方の一つとなっています。スポーツボランティアに意欲のある層に対して、行方市スポーツ推進委員会、行方市スポーツ協会や行方市スポーツ少年団等の関係組織と連携し、各種イベントへのボランティア参加を推進します。

⑥ 「みんなのもの」各人の適性や関心に合わせた形でのスポーツ参画

・野外活動やレクリエーションなど、競技的でないスポーツについてPRを実施し、参画を促します。また令和3年度より実施予定の「行方市自転車活用推進計画」に基づき、関係部課とサイクリング分野からのスポーツ参画を推進します。



麻生運動場



- ・ 体育館
- ・ 柔道場
- ・ 弓道場
- 多目的グラウンド
- ・ 人工芝コート
(テニス・フットサル)
- ・ 多目的広場

北浦運動場



- ・ 体育館
- ・ トレーニングルーム
- ・ テニスコート
- ・ 第1グラウンド
- ・ 第2グラウンド
- ・ クロケートコート
- ・ ゆうゆう広場

玉造運動場(海洋センター)



- ・ 体育館
- ・ 柔剣道場
- ・ テニスコート
- ・ プール (夏期のみ)
- ・ 浜球場
- ・ 泉球場
- ・ 艇庫

行方市のスポーツに関するアンケート調査結果

1. 趣旨

行方市後期スポーツ推進計画を策定するにあたり、市民のスポーツや運動について意見や要望を把握し、前期計画との比較調査、計画策定や市政運営の資料とする。

2. 調査の方法

(1) 調査時期

- ・小・中・高校生 令和2年9月11日～9月30日
- ・一般 令和2年10月1日～10月13日

(2) 調査対象

- ・小・中・高校生 862人
 - 小学6年生
 - 中学3年生
 - 高校2年生
- ・一般 行方市在住の20歳から80歳の男女 1,000人

(3) 回答結果

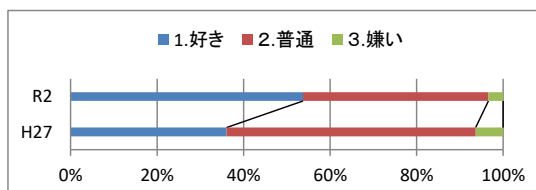
- ・小・中・高校生 回収計799人 回収率92.6%
 - 内訳 小学生 回収268人 回収率94.4%
 - 中学生 回収233人 回収率92.4%
 - 高校生 回収313人 回収率89.4%
- ・一般 回収560人 回収率56%

一般アンケート集計・比較

回収数		H27	R2
性別	1.男性	389	234
	2.女性	499	326
年齢	1.20代	72	17
	2.30代	115	180
	3.40代	202	207
	4.50代	219	29
	5.60代	193	78
	6.70歳以上	102	49
お住まい	1.麻生地区	341	275
	2.北浦地区	215	141
	3.玉造地区	297	144

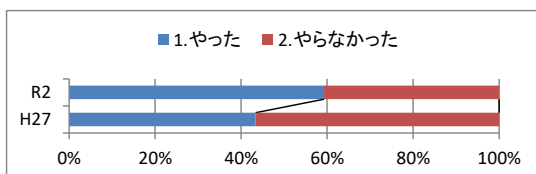
問1 あなたは、スポーツや運動は好きですか。

	H27	R2
1.好き	324	301
2.普通	517	240
3.嫌い	57	19



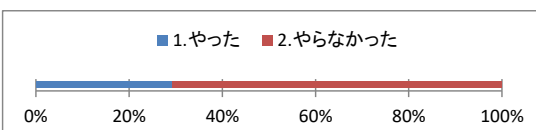
問2 あなたはこの1年間スポーツや運動をやりましたか。

	H27	R2
1.やった	395	332
2.やらなかった	516	228



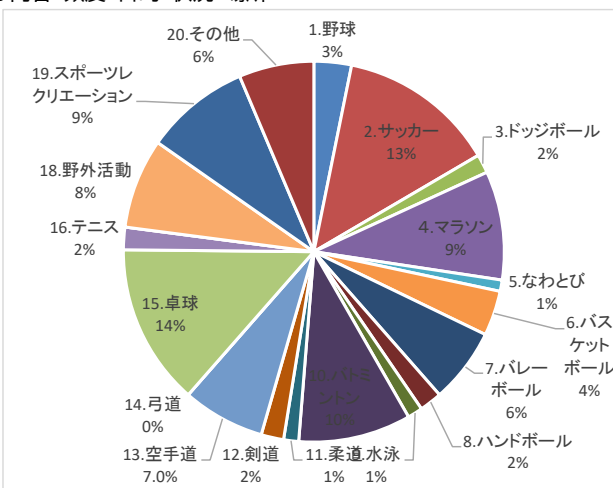
問3 あなたは、スポーツや運動以外にもレクリエーション活動や野外活動はやりましたか。

	H27	R2
1.やった	-	163
2.やらなかった	-	392



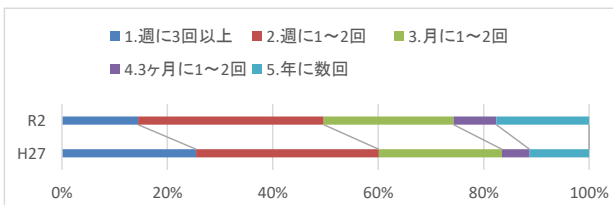
問4 問2・問3で(1.やった)とお答えになった方に、その種目又は内容・頻度・目的・状況・場所についてお伺いします。

種目 (3つまで)	H27	R2
1.野球	-	10
2.サッカー	-	42
3.ドッジボール	-	5
4.マラソン	-	29
5.なわとび	-	3
6.バスケットボール	-	12
7.バレーボール	-	20
8.ハンドボール	-	6
9.水泳	-	4
10.バトミントン	-	30
11.柔道	-	4
12.剣道	-	6
13.空手道	-	22
14.弓道	-	0
15.卓球	-	43
16.テニス	-	6
17.キックベース	-	0
18.野外活動	-	24
19.スポーツレクリエーション	-	28
20.その他	-	20



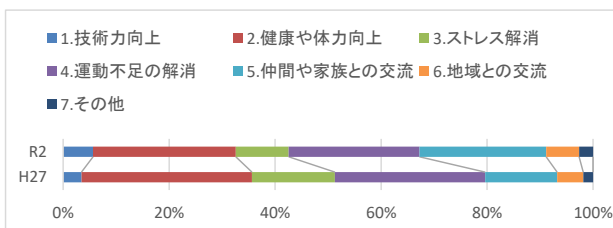
頻度 (1つ)

	H27	R2
1.週に3回以上	97	41
2.週に1~2回	132	100
3.月に1~2回	89	70
4.3ヶ月に1~2回	20	23
5.年に数回	43	50

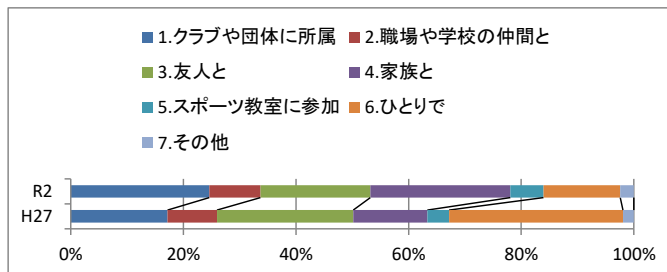


目的 (3つまで)

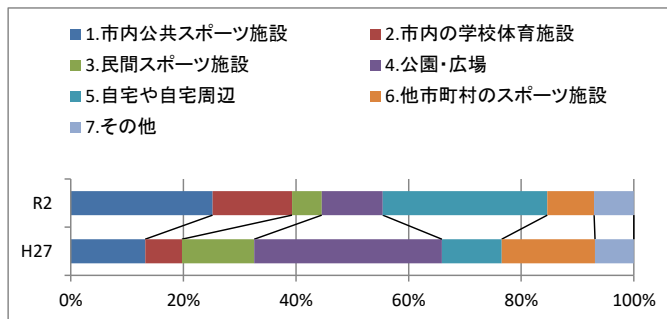
	H27	R2
1.技術力向上	28	30
2.健康や体力向上	261	143
3.ストレス解消	127	53
4.運動不足の解消	230	131
5.仲間や家族との交流	110	127
6.地域との交流	40	33
7.その他	15	14



状況 (3つまで)	H27	R2
1.クラブや団体に所属	98	92
2.職場や学校の仲間と	50	34
3.友人と	138	73
4.家族と	75	93
5.スポーツ教室に参加	22	22
6.ひとりで	176	51
7.その他	11	9

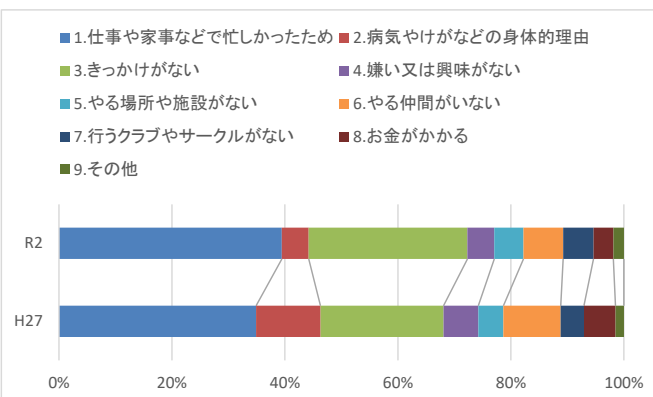


場所 (3つまで)	H27	R2
1.市内公共スポーツ施設	71	100
2.市内の学校体育施設	35	56
3.民間スポーツ施設	69	21
4.公園・広場	179	43
5.自宅や自宅周辺	57	116
6.他市町村のスポーツ施設	89	33
7.その他	37	28



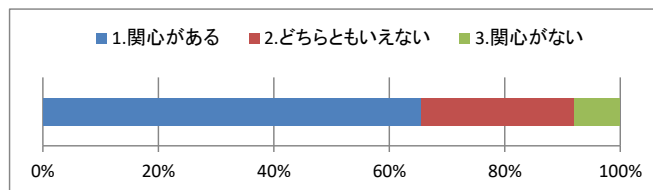
問5 問2・問3で(2.やらなかった)と答えた方にお伺いします。
やらなかった理由は何ですか。

理由 (3つまで)	H27	R2
1.仕事や家事などで忙しかったため	306	191
2.病気やけがなどの身体的理由	100	23
3.きっかけがない	191	136
4.嫌い又は興味がない	54	23
5.やる場所や施設がない	39	25
6.やる仲間がない	89	34
7.行うクラブやサークルがない	36	26
8.お金がかかる	49	17
9.その他	13	9



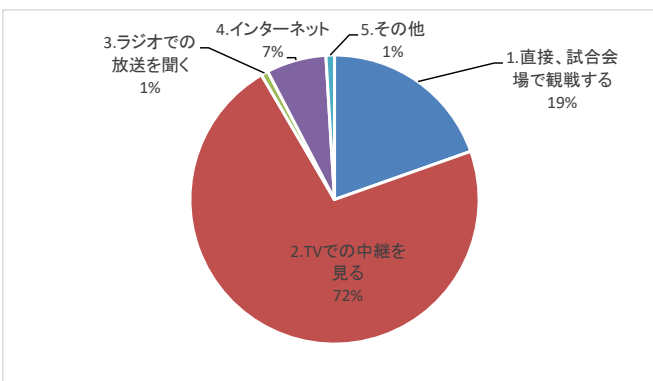
問6 あなたはスポーツ観戦に興味ありますか

興味 (3つまで)	H27	R2
1.関心がある	-	366
2.どちらともいえない	-	148
3.関心がない	-	44



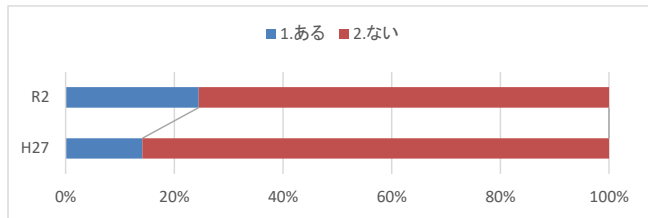
問7 あなたは、スポーツ観戦をするときには主にどのような観戦の仕方になりますか。

観戦の仕方 (3つまで)	H27	R2
1.直接、試合会場で観戦する	-	123
2.TVでの中継を見る	-	452
3.ラジオでの放送を聞く	-	5
4.インターネット	-	42
5.その他	-	6



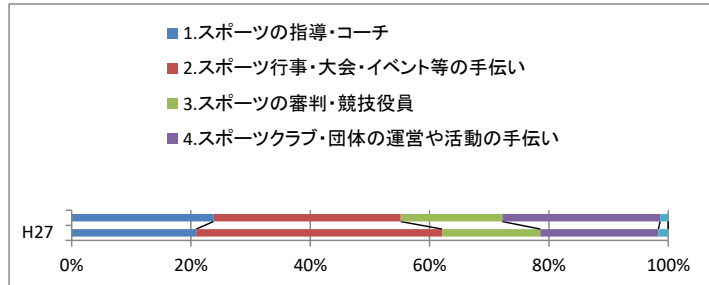
問8 あなたは、スポーツに関するボランティア活動に参加したことがありますか。

	H27	R2
1.ある	125	134
2.ない	759	413



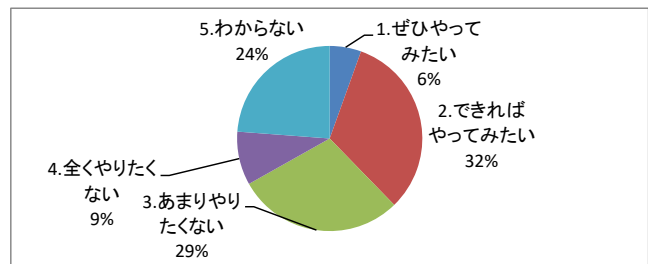
問9 問8で(1.ある)とお答えになった方にお伺いします。どのような活動をされましたか。(3つまで)

	H27	R2
1.スポーツの指導・コーチ	38	53
2.スポーツ行事・大会・イベント等の手伝い	75	70
3.スポーツの審判・競技役員	30	38
4.スポーツクラブ・団体の運営や活動の手伝い	36	59
5.その他	3	3



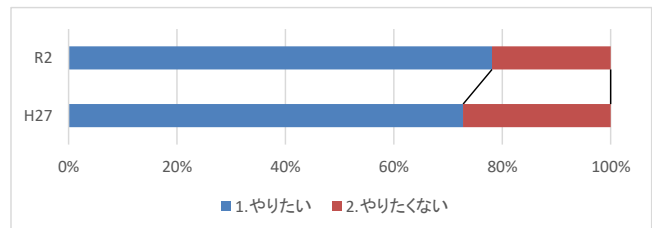
問10 今後、様々なスポーツイベントでボランティア活動をしてみたいと思いますか。

	H27	R2
1.ぜひやってみたい	-	30
2.できればやってみたい	-	176
3.あまりやりたくない	-	159
4.全くやりたくない	-	51
5.わからない	-	130



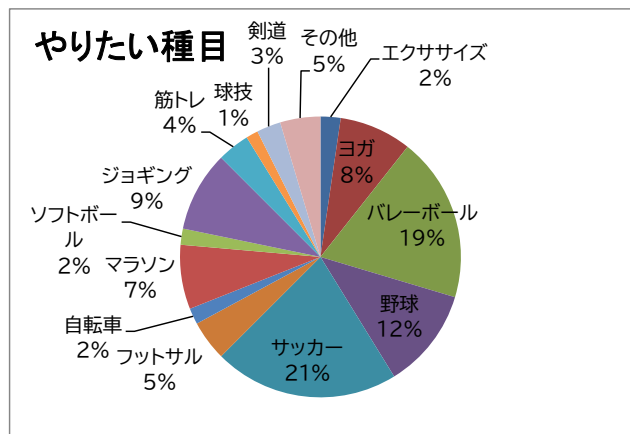
問11 あなたは、今後スポーツや運動をやりたいですか。やりたい場合はその種目を記入してください

	H27	R2
1.やりたい	591	400
2.やりたくない	221	112



やりたい種目

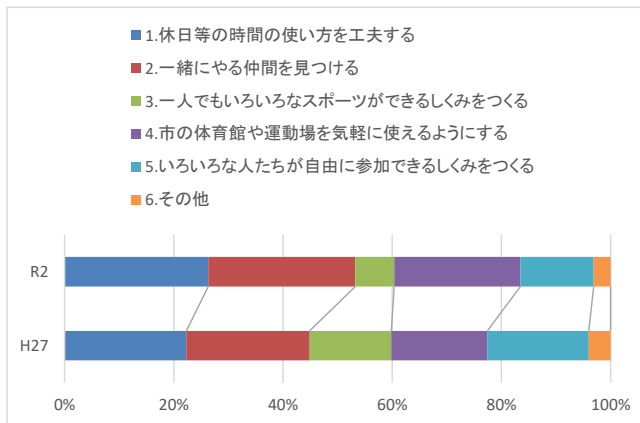
	H27	R2
エクササイズ	-	5
ヨガ	-	18
バレーボール	-	41
野球	-	25
サッカー	-	46
フットサル	-	10
自転車	-	4
マラソン	-	16
ソフトボール	-	4
ジョギング	-	20
筋トレ	-	8
球技	-	3
剣道	-	6
その他	-	10



問12 あなたがスポーツや運動を(現在よりも)するようになるには、どうすればいいと思いますか。

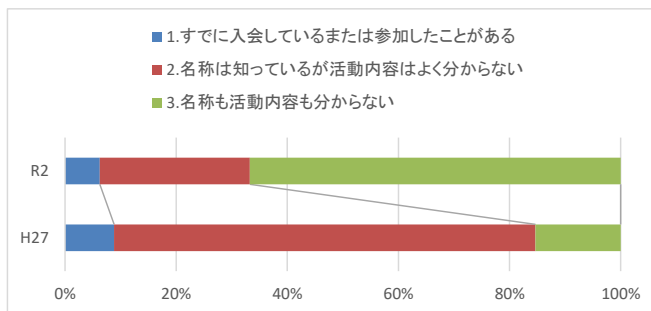
(3つまで)

	H27	R2
1.休日等の時間の使い方を工夫する	346	255
2.一緒にやる仲間を見つける	350	261
3.一人でもいろいろなスポーツができるしくみをつくる	232	69
4.市の体育館や運動場を気軽に使えるようにする	273	224
5.いろいろな人たちが自由に参加できるしくみをつくる	288	130
6.その他	62	30



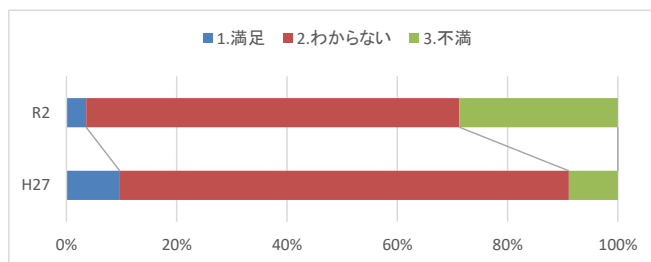
問13 あなたは、「総合型地域スポーツクラブ なめがたふれあいスポーツクラブ」について知っていますか。

	H27	R2
1.すでに入会しているまたは参加したことがある	79	35
2.名称は知っているが活動内容はよく分からない	678	151
3.名称も活動内容も分からない	137	373



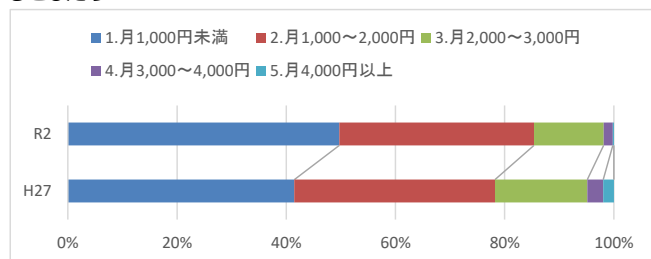
問14 あなたは、現在の行方市の公共スポーツ施設や学校体育施設に満足していますか。☒
不満がある場合は、どのような点に不満があるのか記入してください。

	H27	R2
1.満足	85	20
2.わからない	715	379
3.不満	78	161



問15 あなたが、市の体育施設を利用してクラブや教室に加入するとしたらどのくらいの金銭的負担なら可能ですか。

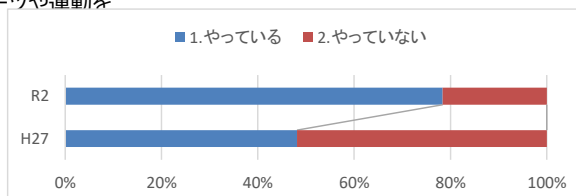
	H27	R2
1.月1,000円未満	341	265
2.月1,000～2,000円	302	190
3.月2,000～3,000円	139	68
4.月3,000～4,000円	24	9
5.月4,000円以上	16	1



問16～18は幼稚園・小学生のお子様をお持ちの方のみご回答ください。

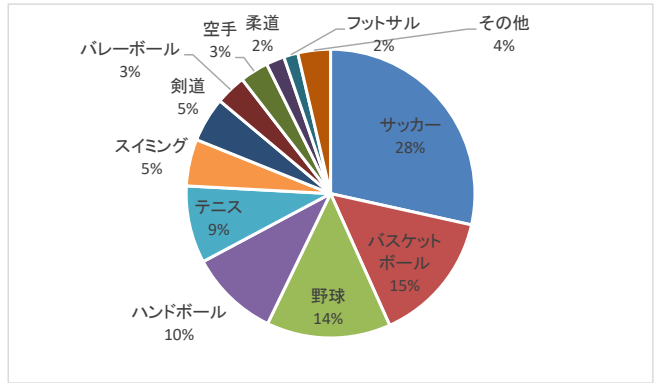
問16 あなたのお子様は、幼稚園や学校の体育の授業以外にもスポーツや運動をやっていますか？

	H27	R2
1.やっている	77	439
2.やっていない	83	121



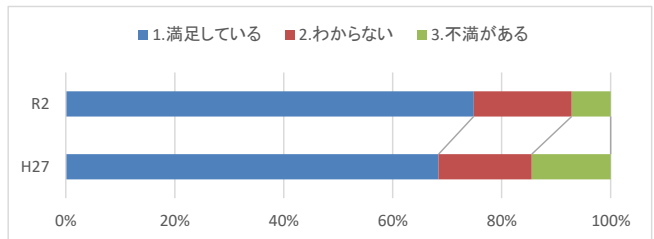
(1つ) 実施している場合の種目

	H27	R2
サッカー	-	125
バスケットボール	-	65
野球	-	61
ハンドボール	-	44
テニス	-	38
スイミング	-	23
剣道	-	22
バレーボール	-	15
空手	-	14
柔道	-	9
フットサル	-	7
その他	-	16



問17 問16で(1.やっている)とお答えになった方にお伺いします。その活動に満足していますか。

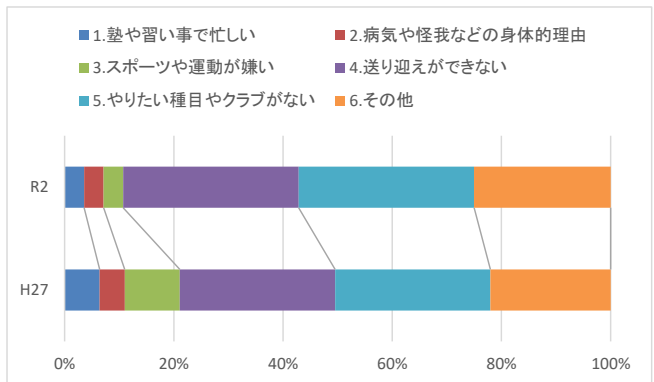
	H27	R2
1.満足している	52	283
2.わからない	13	68
3.不満がある	11	27



問18 問16で(2.やっていない)とお答えになった方にお伺いします。その理由はなんですか。

(3つまで)

	H27	R2
1.塾や習い事で忙しい	7	1
2.病気や怪我などの身体的理由	5	1
3.スポーツや運動が嫌い	11	1
4.送り迎えができない	31	9
5.やりたい種目やクラブがない	31	9
6.その他	24	7

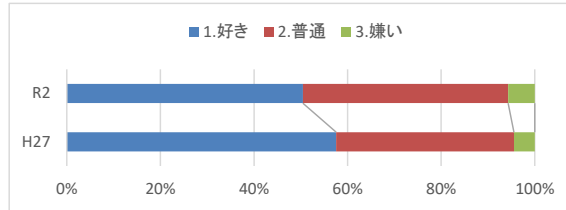


小・中・高校生アンケート集計・比較

回収数		H27	R2
		311	799
性別	男性	162	426
	女性	149	340
	(未回答)	0	33
学年	小学6年	151	253
	中学3年	87	233
	高校2年	73	313

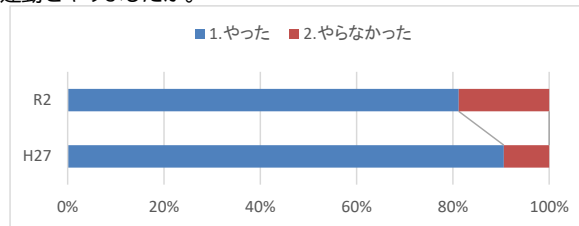
問1 あなたは、スポーツや運動は好きですか。

	H27	R2
1.好き	194	399
2.普通	128	347
3.嫌い	15	45
未回答		8



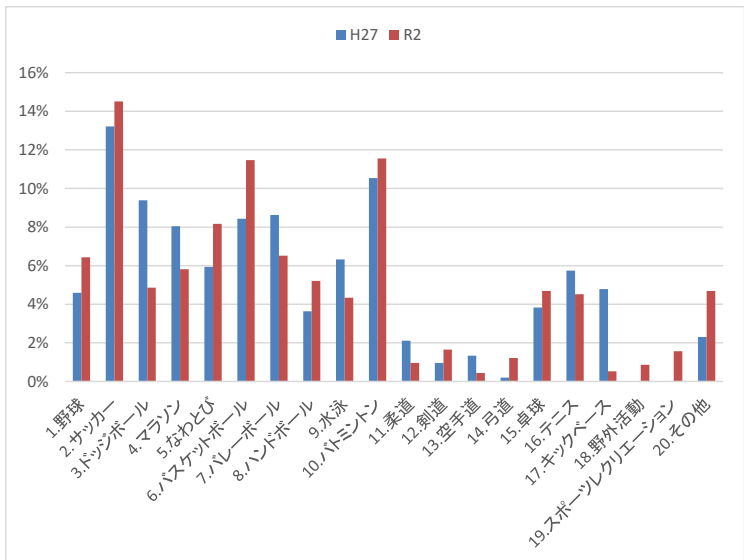
問2 あなたはこの1年間体育の授業以外でスポーツや運動をやりましたか。

	H27	R2
1.やった	250	644
2.やらなかった	26	149
未回答	0	4



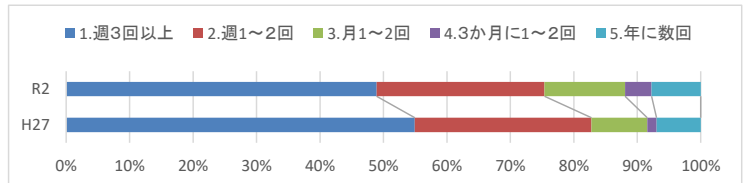
問3 問2で(1.やった)とお答えになった方、どの種目を・どのくらい・何のためにどうやって・どこでやったかについてお伺いします。

種目 (3つまで)	H27	R2
1.野球	24	74
2.サッカー	69	167
3.ドッジボール	49	56
4.マラソン	42	67
5.なわとび	31	94
6.バスケットボール	44	132
7.バレーボール	45	75
8.ハンドボール	19	60
9.水泳	33	50
10.バドミントン	55	133
11.柔道	11	11
12.剣道	5	19
13.空手道	7	5
14.弓道	1	14
15.卓球	20	54
16.テニス	30	52
17.キックベース	25	6
18.野外活動	-	10
19.スポーツレクリエーション	-	18
20.その他	12	54



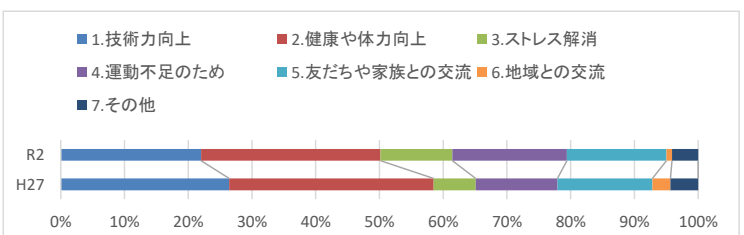
どのくらい (1つ)

	H27	R2
1.週3回以上	150	316
2.週1~2回	76	171
3.月1~2回	24	82
4.3か月に1~2回	4	27
5.年に数回	19	50
無回答	4	153

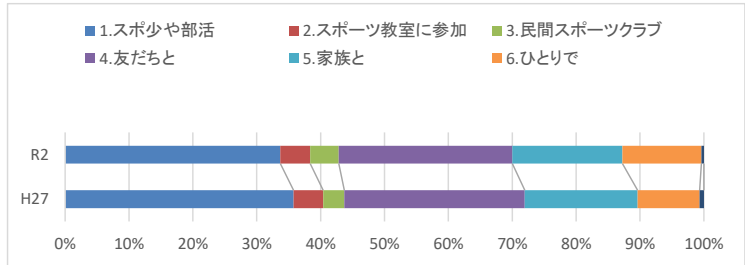


何のために (3つまで)

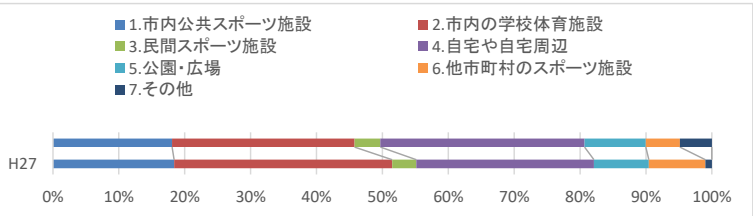
	H27	R2
1.技術力向上	140	279
2.健康や体力向上	170	357
3.ストレス解消	35	143
4.運動不足のため	68	228
5.友だちや家族との交流	79	198
6.地域との交流	15	11
7.その他	23	52



	H27	R2
1.スポ少や部活	162	346
2.スポーツ教室に参加	21	48
3.民間スポーツクラブ	15	46
4.友だちと	128	279
5.家族と	80	177
6.ひとりで	44	127
7.その他	3	4

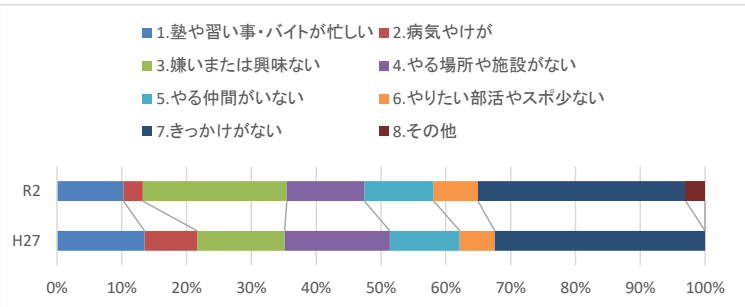


	H27	R2
1.市内公共スポーツ施設	75	175
2.市内の学校体育施設	135	268
3.民間スポーツ施設	15	38
4.自宅や自宅周辺	110	300
5.公園・広場	34	90
6.他市町村のスポーツ施設	35	50
7.その他	4	47



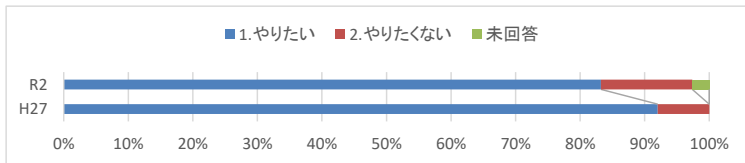
問4 問2で(2やらなかった)とお答えなった理由 (3つまで)

	H27	R2
1.塾や習い事・バイトが忙しい	5	24
2.病気やけが	3	7
3.嫌いまたは興味ない	5	52
4.やる場所や施設がない	6	28
5.やる仲間がない	4	25
6.やりたい部活やスポ少ない	2	16
7.きっかけがない	12	75
8.その他	0	7



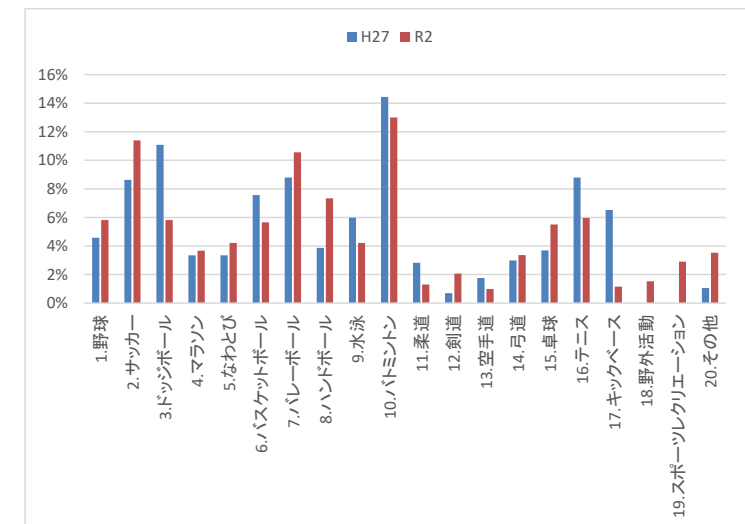
問5 あなたは今後スポーツや運動をやりたいですか。

	H27	R2
1.やりたい	265	665
2.やりたくない	23	113



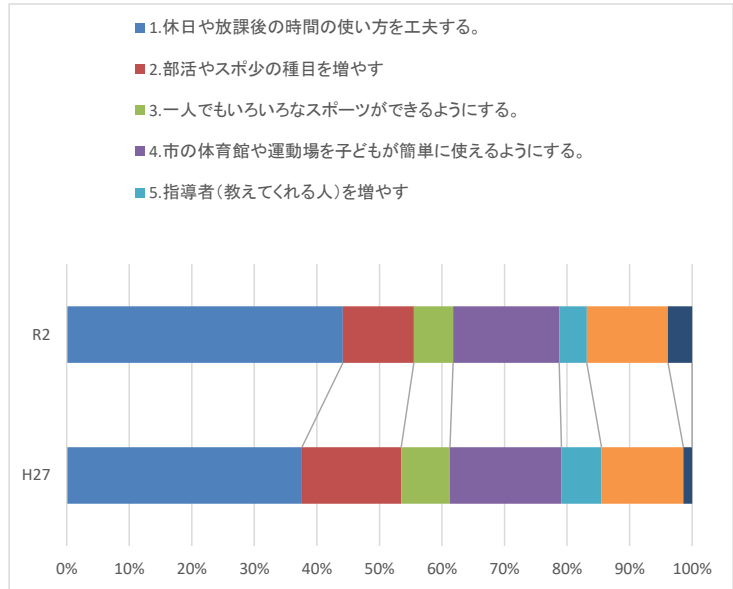
問6 問5で(1やりたい)と答えた方に伺います。どのようなスポーツや運動やりたいですか。

	H27	R2
1.野球	26	76
2.サッカー	49	149
3.ドッジボール	63	76
4.マラソン	19	48
5.なわとび	19	55
6.バスケットボール	43	74
7.バレーボール	50	138
8.ハンドボール	22	96
9.水泳	34	55
10.バトミントン	82	170
11.柔道	16	17
12.剣道	4	27
13.空手道	10	13
14.弓道	17	44
15.卓球	21	72
16.テニス	50	78
17.キックベース	37	15
18.野外活動	-	20
19.スポーツレクリエーション	-	38
20.その他	6	46



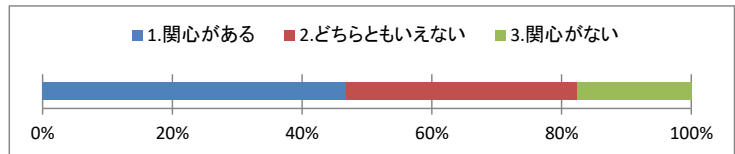
問7 あなたがスポーツや運動を(現在よりも)するようになるためには、どうすればいいと思いますか。(3つまで)

	H27	R2
1.休日や放課後の時間の使い方を工夫する。	135	401
2.部活やスポ少の種目を増やす	57	103
3.一人でもいろいろなスポーツができるようにする。	28	57
4.市の体育館や運動場を子どもが簡単に使えるようにする。	64	154
5.指導者(教えてくれる人)を増やす	23	40
6.いろいろな人たちが自由に参加できるしくみ(団体やサークル)を作る	47	118
7.その他	5	35



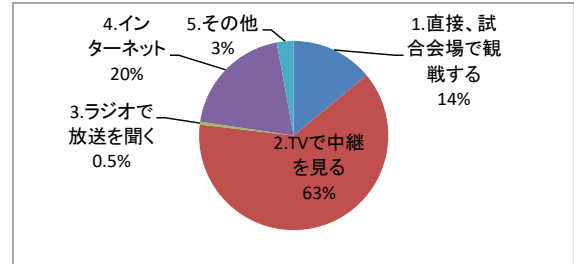
問8 あなたは、スポーツ観戦に関心はありますか。

	H27	R2
1.関心がある	-	368
2.どちらともいえない	-	279
3.関心がない	-	138



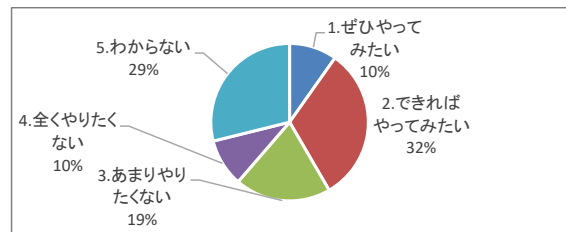
問9 あなたは、スポーツ観戦をするときには主にどのような観戦の仕方になりますか

	H27	R2
1.直接、試合会場で観戦する	-	112
2.TVで中継を見る	-	502
3.ラジオで放送を聞く	-	4
4.インターネット	-	158
5.その他	-	23



問10 今後、様々なスポーツイベントでボランティア活動をしてみたいと思いますか。

	H27	R2
1.ぜひやってみたい	-	76
2.できればやってみたい	-	247
3.あまりやりたくない	-	153
4.全くやりたくない	-	76
5.わからない	-	224



問11 あなたは、「総合型地域スポーツクラブ なめがたふれあいスポーツクラブ」について知っていますか。

	H27	R2
1.すでに入会しているまたは参加したことがある	14	26
2.名称は知っているが活動内容はよく分からない	70	117
3.名称も活動内容も分からない	209	634

